

# 公共の福祉とわたしの夢

静岡県・静岡県立富士宮西高等学校 1年 仲田 莉果

わたしは、自分の将来の夢についてまだ具体的に決まっているわけではありません。もちろん、いいなあと思っている職業はいくつかありますが、他の人に胸をはって断言できるほどはつきりはしていません。でも、一つだけ自分の中で、将来の職業についての条件みたいなものがあります。それは、ある程度社会の利益にもつながり、世の中に奉仕できる仕事である、ということです。

働くことの意味というものは、「自分の生活のため」というのが当然の答えかもしれません。きれいごとでない本音の部分では、たぶんほとんどの人がそう思っているでしょう。中学で歴史や公民を勉強してきましたが、今の経済の仕組みになるのに、外国でも日本でもいろんなことがあったことを学習しました。その一番大きなテーマが、冷戦だったと思います。国の経済を資本主義にするか、それとも社会主義にするか、世界の多くの国がどちらかの道を選ばされました。すべての国が自分たちの意志で選べたわけではありませんが、アメリカ側とソ連側に分かれてにらみ合った時代がありました。日本は、アメリカ側の資本主義国陣営の一員として、発展してきました。その後、世界的にも社会主義国はどんどんなくなっ

ていき、ソ連も崩壊してロシアになりました。今では、わたしの知る限り、世界では圧倒的に資本主義国が多いです。

この「資本主義」という考え方は、良く言えば「自由な経済活動」ということですが、わたしの印象としては、「個人の利益を最優先にするのが当たり前だ」という考え方のように受け取れます。つまり、「他人のため、社会のためになんか働けるものか」ということです。世界中で社会主義がなくなっているということは、世界的なレベルでその考え方が正しいという結論になったことを意味しています。ちょっと悪く言えば、「どうせ人間は欲張りだよ」という開き直りのようにも感じられます。でも、それが悪いということではなくて、逆に普通の人間だったらむしろ当然の考えです。誰だって自分の利益を追求したいし、「社会のため」みたいな実感のわかない考えでやる気は出にくいと思います。わたしも「普通の人間」の一人ですから、やはり自分のことを第一に考えてしまいます。

でも、「それでいいのかな」と感じる時があります。今の世の中は、その個人第一主義のような考えが行き過ぎているように思います。だから、地球温暖化のような世界

規模の環境問題が起こっています。日本でもそうです。詳しいことはわたしには分かりませんが、バブル崩壊も個人だけの利益を追求し過ぎた結果のような気がします。最近のニュースでは、「粉飾決算」とか「インサイダー取引」とか、よく分からない言葉ですが、何か悪いことでいろんな会社や人物が問題になりました。起業した時は純粋な情熱を持っていたかもしれませんが、法を犯してまで個人の利益を追求し過ぎた結果、悪い方向へと流れていってしまったと思います。

職業選択についても、社会的によくない内容の仕事もあるし、完全な犯罪もあります。「オレオレ詐欺」「振り込め詐欺」それから「架空請求」などが、今は普通に行われています。テレビで見たことがあります。そういうことを組織的にやっている人たちも、上司が部下を管理して、叱ったりほめたり、普通の会社と同じような雰囲気でした。世間で思っているよりも、本人たちに罪の意識はないのかもしれませんが。

資本主義は自由競争の世界ですが、弱肉強食の世界でもあります。どんなに大勝してもいい代わりに、負けても文句は言えません。悪いことをしても、「食っていくためだから」という、正当防衛みたいな理屈になっています。自由競争が行き過ぎて、みんなが自分のことだけを考える社会ではもうやっていけないところまできているように思います。

わたしは、みんながほんの少しだけ奉仕する心を持てばいいと思います。特に、わ

たしたちのようにこれから社会に出る人たちは、将来の夢や職業選びの条件に、「社会に奉仕できる仕事」という部分を組み込むべきです。公務員だけが社会に奉仕できる仕事ではないような気がします。「奉仕の心なんてくだらない」という考えでは、社会人として情けないと思います。別に、他人のために働こうとは思いません。わたしだって、自分のために職業を選んで働くつもりです。でも、自分のためだけに働くのはよくないと思います。そんな考えの人が多ければ、わたしたちの未来は暗いように感じます。

今の世の中は、「幸せに生きること」イコール「お金を稼ぐこと」という価値観になっています。でも、よく考えてみると、わたしの将来の夢は、「お金を稼ぐこと」ではなくて「幸せに生きること」です。仕事を通じて幸せだと感じるのは、お金だけではないはずです。「他人に喜ばれる」とか「社会の中で、自分が必要とされている」というところからも、幸せは感じられます。そういうところに幸せを感じられたら、ニートの問題みたいなものも起きないでしょう。

中学の公民で憲法を勉強した時、「公共の福祉に反しない限り」という言葉が出てきました。今は、そこからもう一歩進んで、公共の福祉を積極的に考える時代になっていると思います。公共の福祉とわたしの夢が両立できたら、最高だと思います。わたしは、「ぜいたくな考えだ」とか「きれいごとだ」と思われてもいいから、自分もやりがいがあって、しかも社会のためにもなるような仕事に就きたいと考えています。